

### 13 硬膜外 PCA による無痛分娩の経験

傳田 定平・湯川 尊行・渡辺由紀子  
今井 英一・北原 泰・佐久間一弘  
新潟市民病院麻酔科

硬膜外 PCA による無痛分娩を 2 例経験した。方法は、陣痛発来時、子宮口 4, 5cm 程度開大したところで腰部硬膜外カテーテル留置。0.1% のロピバカインとフェンタニル  $2\mu\text{g/ml}$  を 20ml 注入。280ml をサブラテックポンプまたはディブテックポンプを用い基本投与速度 6ml/時疼痛時ボーナス投与 5ml ロックアウトタイム 15 分で設定した。分娩第 I 期の疼痛管理は十分であったが第 II 期の疼痛管理は不十分であったものの、患者にとっては満足いく経過をとった。しかし、分娩が遷延する可能性があること、吸引・かん子分娩の可能性が高くなることを考慮すべきである。また、産褥期の疼痛に対しても対応すべきと考える。

### 14 腰椎変形の強い患者における経椎間板法による腰部交感神経節ブロック 2 症例

齊藤 直樹・岡本 学・富田美佐緒  
馬場 洋  
新潟大学病院麻酔科

腰椎変形の強い 2 症例に対して、経椎間板法によるアプローチで、腰部交感神経節ブロックを施行した。共に術前の単純 X 線写真で腰椎の偏移・変形が強く、ブロック針の刺入の困難が予想された。術前の CT/MRI 所見が、ブロック計画を立てる上で非常に有用であった。画像所見を基に綿密な刺入計画を立てることで、術中には良好な造影所見を得ることができた。術後も大きな副作用はなく、比較的良好的結果を得ることができたが、経椎間板法を第一選択としたことがブロック成功の大きな要因と考えられた。

### 15 内視鏡下交感神経遮断術中のテストブロックの有用性と問題点

岡本 学・杉本 祥子・富田美佐緒  
馬場 洋  
新潟大学医歯学総合病院麻酔科

胸腔鏡下胸部交感神経遮断術中に手術効果予測のため神経焼灼遮断に先行して、局所麻酔薬を使用した交感神経テストブロックを施行した。その結果、手掌多汗症患者での第 3 胸椎レベルブロックで手掌温度が上昇し、テストブロックと手術結果が一致する傾向が認められた。しかし、腋窩および顔面温度測定ではテストブロックで温度上昇がはっきりしなかったものの、手術結果が良好であり、テストブロックと手術結果が必ずしも一致しない傾向が認められた。顔面や腋窩多汗の患者におけるテストブロックの効果判定として体温測定より鋭敏かつ特異的なモニターが必要かもしれない。

### 16 脊髄小脳変性症患者の開腹下胆嚢摘出術の麻酔経験

種岡 美紀・荻野 英樹・飯田 裕司  
六角 由紀・安西亜里彩  
竹田総合病院麻酔科

臨床症状から脊髄小脳変性症が強く疑われた患者の開腹下胆嚢摘出術の麻酔を経験した。術後早期に抜管するために、筋弛緩モニターを使用し筋弛緩薬の使用量を最小限に抑え、比較的呼吸抑制が出現しにくいと考えられるプロポフォールによる全静脈麻酔と硬膜外麻酔を併用した。これにより、手術室での抜管が可能となった。筋弛緩モニターは母指内転筋に対して装着したが、母指内転筋は疾患により影響を受けている可能性もあるため、比較的影嚢を受けにくい眼輪筋もモニターとして使用すべきであった。また、術中使用したドパミンに対して過大反応が認められたが、これは疾患によりカテコラミンに対する反応性が変化していたためと考えられる。